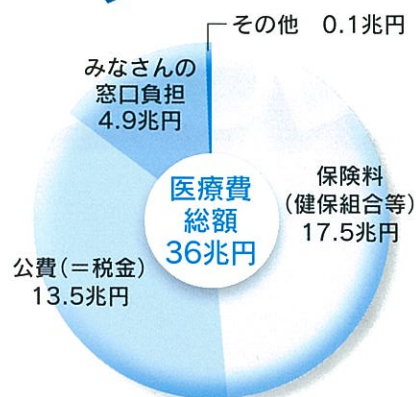


# 健保がピンチ!

日本の医療費の財源は、患者負担の他に国や地方自治体からの公費(=税金)、そして健保組合などの被用者保険からの保険料からなっています。

このように日本の医療費は社会全体で支えています。健保組合もその一翼を担い、みなさんや事業主から納めていただいた保険料をみなさんや高齢者の医療費として支払っています。



[平成21年度 国民医療費の概況より]

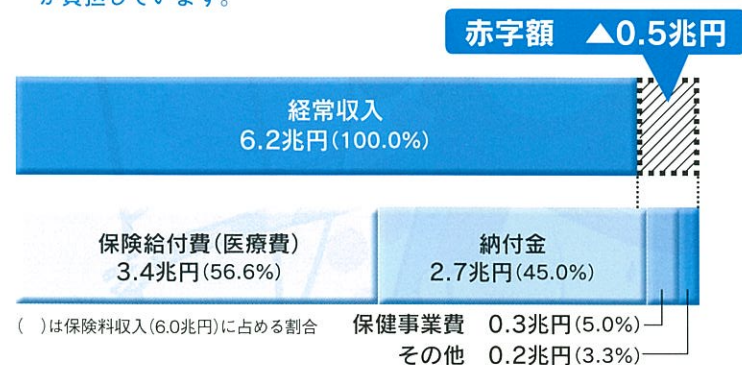
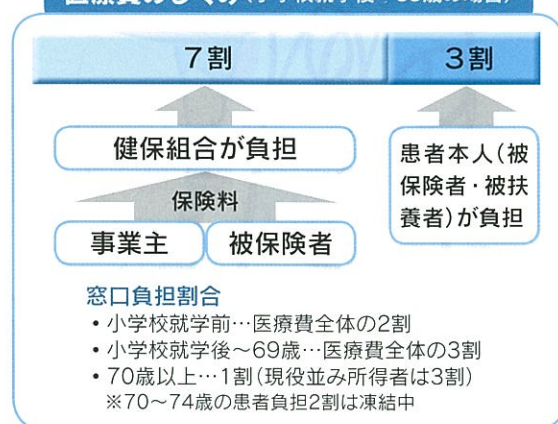
## 4月から医療費がアップ。医療費負担がますます大きく

医療機関で治療を受けたとき、みなさんが窓口で支払っているのは医療費の3割(小学校就学後~69歳の場合)で、残りの7割\*を健保組合が支払っています。

平成24年4月から医療の値段である診療報酬が引き上げられるため、医療費負担はさらに膨らむことが予想されます。

\*医療費の全額が公費負担されている場合も、その7割は健保組合が負担しています。

### 医療費のしくみ(小学校就学後~69歳の場合)



[平成21年度 健保組合決算確定数値より]

## 高齢者医療費を支えるための費用を拠出

健保組合は、現役世代であるみなさんの医療費だけでなく、高齢者の医療費をも負担しています。

65歳から74歳までの前期高齢者の医療費は、健保組合などと国民健康保険間でその負担の不均衡を調整されています。前期高齢者の加入者数の多い国民健康保険の財政支援を、若年者の加入者数の多い健保組合などが「前期高齢者納付金」として支払っており、その負担は年々大きくなっています。

また、現在、75歳以上の後期高齢者が加入する医療制度も、その財源の5割を国や地方自治体からの公費と4割を健保組合などから拠出される「後期高齢者支援金」でまかっています。

今では、この支援金や納付金が保険料の約5割をしめ、多くの健保組合が保険料率を引き上げ、さらには保健事業も削減して対応しているにもかかわらず、赤字が解消できずピンチに陥っている状況です。

## 健保組合のピンチは医療保険制度のピンチ!

### 健保組合の危機にみなさんのご協力を!

健保組合の役割は、医療費の負担や高齢者医療の支援だけではありません。みなさんへのさまざまな給付、そして健保組合独自で行う疾病予防や健康づくりのための保健事業にあります。これこそが、健保組合の最大のメリットなのですが、先述したような支出が大きく膨らみすぎ、十分に行えなくなっているのが現状です。景気低迷で保険料収入の増加が見込めない今、加入者のみなさんが健康であることが健保財政維持の第一歩なのです。

#### 健診をきちんと受けましょう

毎年1回、定期的に健康チェックをしましょう。健診をただ受けるだけでなく、結果もしっかりチェック。前年と変わったところはないか、数値改善に必要な生活習慣の改善ポイントは何かなど、健診結果をおおいに活用しましょう。

とくに要検査・要精密検査の項目は必ず医療機関で受診しましょう。

#### 病気をよせつけない体をつくりましょう

規則正しい食生活や風邪のシーズンにはうがい・手洗いの励行などの日々の予防策の実施、さらには通勤時に1駅手前から歩くなど、時間をみつけて自分にあった健康づくりに取り組んでみませんか。



できることから  
はじめてみませんか?

#### 正しい受診を心がけましょう

とくに急を要するわけでもなく夜間や休日に受診したり、同じ病気で複数の病院を渡り歩いたりしていませんか? まずは、信頼できるかかりつけ医を持つことから始めましょう。そして、急病でなければ、できるだけ診療時間内の受診を心がけましょう。



#### ジェネリック医薬品を活用しましょう

ジェネリック医薬品は、先発医薬品の特許満了後に厚生労働省が先発医薬品と有効成分や効能が同等と認可した薬です。開発時間や費用が抑えられているため値段も安くなっています。そのため、長く服用する薬ほど節約効果も大きくなるので、厚生労働省も推奨しています。